

授業科目名	幼児理解	教員名	久松 尚美	免許・資格との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	必修
授業形態	講義	担当形態	単独		保育士	選択
科目番号	SEI301	配当年次	3年後期	卒業要件	こども音楽療育士	
単位数	2単位				小幼コース	必修
科目目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（幼稚園）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法					
一般目標	<p>幼児理解は、保育・教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児理解を深めるための知識や基礎的な態度を理解する。また、幼児の発達や学び、その過程で生じるつまずきなど、その要因を把握するための原理及び対応の方法について考える。</p> <p>(1) 幼児理解の意義と原理 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的な態度を理解する。</p> <p>(2) 幼児理解の方法 幼児理解の方法を具体的に理解する。</p>					
到達目標	<p>(1) 幼児理解の意義と原理</p> <p>1) 幼児理解の意義を理解している。</p> <p>2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。</p> <p>3) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。</p> <p>(2) 幼児理解の方法</p> <p>1) 観察と記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。</p> <p>2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。</p> <p>3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解することができる。</p> <p>4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</p>					
授業の概要	<p>幼児の実際の姿や具体的な事例を通して理解を深め、保育や教育の現場における幼児理解の視点・方法・評価を学ぶために、グループ協議を通して事例の分析・考察を行う。また、発表や協議の場を設け、幼児理解の道筋や根拠について確認しながら、主体的・対話的な授業展開を取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授業計画	<p>第1回：幼児理解の意義（本講義の主旨と講義計画について） 子育てをめぐる現状と課題、幼児理解の意義について考える。〔目標(1)-1〕</p> <p>第2回：幼児理解の考え方 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解する。〔目標(1)-1, 2〕</p> <p>第3回：幼児理解における保育者の関わり 幼児理解を深めるための保育者の姿勢・態度について考える。〔目標(1)-2, 3〕</p> <p>第4回：人的環境としての保育者とカウンセリングマインド 自己覚知（個人的な体験に基づく気持ちや感情的な傾向）を促し、保育者としての幼児との関わりについて考える。〔目標(1)-2, 3〕</p> <p>第5回：幼児理解の方法 幼児理解のための様々な方法について理解する。〔目標(1)-2, 3〕・(2)-1〕</p> <p>第6回：保育における観察法 幼児理解における観察の意義や、目的に応じた観察方法を理解する。〔目標(1)-2〕・(2)-1, 2〕</p>					

	<p>第7回：目的に応じた記録の工夫と生かし方 幼児理解の目的に応じた記録の工夫と記録の生かし方について考える。〔目標(2)-1), 2)〕</p> <p>第8回：個と集団を捉える視点 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解する。〔目標(1)-3)・(2)-2)〕</p> <p>第9回：集団における経験と育ち 集団遊びの成立・発展に関わる保育者の援助と役割について考察する。〔目標(1)-3)・(2)-2), 3)〕</p> <p>第10回：発達における葛藤やつまずき 自我の発達に関わるつまずきを理解し、保育者としての関わりや配慮について考える。 〔目標(1)-2), 3)・(2)-3)〕</p> <p>第11回：カウンセリングの具体的な手法 保育実践や子どもの理解に結びつきやすい、カウンセリングの具体的な方法を理解する。 〔目標(1)-2)・(2)-1)〕</p> <p>第12回：保護者の心情と基礎的な対応 保護者の心情やニーズを踏まえた援助の展開、保育者の基本的態度の原則を理解する。 〔目標(1)-1), 3)・(2)-4)〕</p> <p>第13回：カウンセリングマインドと保育 保護者の子育てへの不安や葛藤を受け止め、対応するカウンセリングの姿勢について考える。 〔目標(1)-1), 3)・(2)-4)〕</p> <p>第14回：地域資源の活用と関係機関等との連携・協力 地域社会・専門機関等との連携の意義や、園内の協力体制について考える。〔目標(2)-3), 4)〕</p> <p>第15回：幼児理解からより保育への展望・まとめ 幼児理解に基づいた日々の保育実践への展望・全体のまとめ。〔目標(1)-1), 3)・(2)-4)〕</p> <p>期末試験</p>
学生に対する評価	<p>演習に対する取り組み10%、課題・レポート30%、期末試験60%を、総合して評価する。 なお、提出された課題・レポート等へのフィードバックは、以下の方法にて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業にて、口頭で行う。 ・解答例を授業にて提示する。
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の講義に関連する内容について、事前に予習しておくこと。また、不明な点等は調べておくこと。 ・講義を受けて、レポート課題があるときは、必ず次回の授業で提出すること。 ・講義で使った資料やノートのファイル管理を徹底すること。 ・講義で使用したテキスト箇所を必ず復習しておくこと。
テキスト	<p>文部科学省 平成31年3月『幼児理解に基づいた評価』</p>
参考書・参考資料等	<p>入江礼子・小原敏郎 編『子ども理解の理論と方法』萌文書林 2019年 清水益治・森 俊之 編『子どもの理解と援助』中央法規 2019年 青木久子 他編『子ども理解とカウンセリングマインド—保育臨床の視点から—』萌文書林 2001年 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』フレーベル館</p>
担当者からのメッセージ	<p>課題や演習に積極的に取り組み、発表や協議の場を生かしながら、主体的に望むこと。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日 16時20分～17時 その他の日時については、メール等でアポイントを取って来室すること。</p>